

H.27 年度 軽井沢写真コンテスト結果講評

応募数 52 名 計 99 点の作品応募がありました。皆さまご応募ありがとうございました。

昨年はありました「浅間山部門」の別枠での表彰もございましたが 諸事情に寄り今年度はありませんので 「軽井沢町内での風景写真、軽井沢の四季に溶け込む自然な表情の人物・動物の写真」の総合テーマで審査員 3 人で公平に審査致しました。

<・グランプリ 夕映え 武者虎雄 様>

撮影場所は大日向地区からとらえた浅間山の夕景です。ツツジは赤い花が軽井沢でも一般的ですが、あまり見ない黄色の花も入れ込み 浅間山に照らす夕焼けを瞬間的に抑えます。ツツジに差し込む夕日も上手く入れ込み その美しさは全応募作でも ひときわ輝いておりました。

<・準グランプリ 春を待つ雲場池 安部洋平 様>

撮影場所は雲場池 積雪後の雪景色での写真です。雲場池は結構狭く 一般的な広角レンズではこのフレームでは収まりません。実際に撮影したレンズまでは確認はしておりませ

んが おそらく魚眼レンズで撮られたことにより バースを効かせてきれいに全貌を収めてます。雲場池の樹木は融雪が早く積雪した当日か翌日でないと撮れませんので 意気込みが 伺えます。ホワイトバランスを効果的に青に転ばしてるのも正解だと思います。

<・入選 天からの贈り物 大井義昭 様>

撮影場所は竜返しの滝 初夏の頃に滝から遮光が差し込む時を狙ってる風景写真の王道です。気候条件とか納得できる時はなかなか難しいですが とても幻想的な構成で素晴らしい写真です。私の推測ですがこの撮影位置なら川に入り込まないと撮れないので 長靴 三脚 ND フィルターと入念に準備した力作です。

<・入選 春の装い 佐藤胸勝 様>

撮影場所は発地の公民館での小さな公園 軽井沢は観光誘致として呼べる桜の名所はあまり無いですが 地元の土地勘を生かしたマニアックな撮影場所。それでも作者の構成が完璧で朝靄がうっすら立ちこむ中に見える浅間山 桜 そして滑り台が作品として成り立っています。

<・入選 リトル軽井沢 岩原憲也 様>

撮影場所は軽井沢駅北口 2016年に積雪した後にイルミネーションを捉えてますがやっぱり雪景色のイルミネーションが軽井沢には似合いますよね。タイトルがとてもマッチしており微妙なあおり角度で奥行き感もうまく表現しています。

<・佳作 長倉納涼花火は人、人、人、 中村信雄 様>

撮影場所は夏の始まりのイベント 長倉神社の花火大会 写真技法としてはけして高くはありませんが 状況説明とタイトルが見る人に一目にする不思議な写真です。

写真技法としては電柱が入り込んでたり 派手目の花火の時でもないのが惜しい シャッタースピードも人込みと花火と手振れの兼ね合いも悩んだかと思われま

<・佳作 盛夏到来のレイクガーデン 小林芳夫 様>

撮影場所はレイクガーデン 避暑地軽井沢らしさも漂う 1 枚。上手く入道雲を映り込みの場所を選び フレームの隅々まで配慮してる構成力の完成度は高い写真です。

<・佳作 晩秋の浅間山 津金澤周子 様>

撮影場所は北軽井沢から帰路途中のどこかとお聞きはしてます。カラマツが夕日で照らす中、通常は右に流れる噴煙が 珍しく左に流れてます。地味ではありますが こうした着眼点を持つ撮影者の感性が素晴らしいです。

<・佳作 秋の別荘地 小林秀樹 様>

撮影場所名もなき秋の別荘地 誰もが思い描く別荘地軽井沢の軽井沢を的確に捉えています。

実際 作品としてシンプルにこの状況を探るのは簡単そうですが 奥も深いです。

夕日時とか気候条件が瞬間的な時ならより印象的な写真になるかと思

<・佳作 気持ちいいね 中島慶治 様>

撮影場所は白糸の滝 撮影者の愛犬をモデルとして観光名所での撮影会（笑）をした時でしょうか・・・明るい望遠レンズで ワンちゃんの視線を貰う為 カメラ横で必死に呼びかけてる光景が思い浮かびます。広報写真としては撮影者寄りの写真ですが こうした写真もありかと当コンテストは考えてます。

<・佳作 爽春Ⅱ 川田玲子 様>

撮影場所はこの写真では・・・わかりません 　　ただ狙いは素晴らしく新緑のつぼみでフレームを作りこれから芽吹きがはじまる樹を中心に捉えた構成が見る人を魅了します。やや構成が左よりになっており と数センチ上手側に動いてればもっと完ぺきな作品になったと思いますが 太陽の逆光の兼ね合いもあったかもしれませんね。

おわりに・・・

入選した写真以外でも素晴らしい写真もまだまだあり 　今回は賞として残念ながらご縁がない作品も多数ございました。

応募件数が多い雲場池とかは上位に食い込むと入選11件のバランスも考慮しますので本来なら入選してもいい写真も賞から漏れることもあります。

当コンテストは他のコンテストにある写真屋のプリントでないと受け付けませんとした枠組みを意識的に外してます。作品作りとして自分でプリントまで配慮して欲しいと思う私

の強い思いもありますので、撮影から現像 プリントまで ぜひ撮影者が納得できる作品
を次回もご応募お待ちしております。今回応募作品の中でコピー用紙で応募された作品も
ありましたが 上記の理由である程度の線引きはさせていただきます。ご了承ください。

広報写真のコンテストですので 撮影場所が明確にわかるのが大切ですが 構成 狙いが
しっかり伝わればその限りではありません。

写真は楽しむことが第一かと思います。通年とおして撮影するのはとても労力が いるこ
とで皆 皆できることではありませんが 誰もがそのとき目にする偶然の風景が飛び込む
時があると思います。そのときにカメラがバックに入ったら占めたものです。

スマホのカメラでもいいとは思いますが。ぜひ収めてください。

風景写真の極みは絵葉書写真です・・・が 天気や雲 気候条件が完ぺきな時 突き止め
れば切りがありません。構図もシンプルなものこそ王道です。

ただ撮影者のアイデアがある個性的な写真こそ インパクトで人目につきます。

私自身もそこまで風景写真の王道にこだわることより寄り人目に置かれる構成を常日頃考
えております。ぜひ来年度も 皆さまの力作のご応募心よりお待ちしております。

審査員代筆代表として 難波吾郎